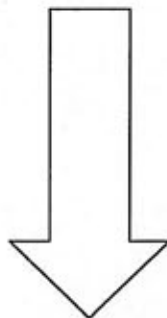


資料 2-2 大台ヶ原森林再生手法の検討課題

1. 大台ヶ原森林植生の現況

1936年（昭和11年）の大台ヶ原森林植生

西日本で最大規模のブナ林や分布南限にあたるトウヒ林など貴重な森林が存在している。 矢頭：1963、菅沼・内山：1984



大台ヶ原森林植生の衰退

- ・ドライブウェイの開通による利用者の増加に伴うインパクトの増加
- ・周辺地域の大規模造林によるシカの集中・増加
- ・地球温暖化、酸性雨等の複数の要因

2002年（平成14年）の大台ヶ原森林植生の変化点

東大台地区

森林植生（群落、群落構造）が衰退

- ・トウヒ林の分布面積縮小、衰退
- ・ミヤコザサ群落の拡大
- ・下層植生および幼樹、稚樹の欠落 等

西大台地区

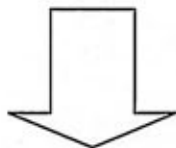
森林植生（群落、群落構造）が衰退

- ・ウラジロモミ等林冠構成種の枯死
- ・スズタケの衰退
- ・下層植生および幼樹、稚樹の欠落 等

植生の単純化



紀伊半島の  
生物多様性の低下＝不健全



植生、群落構造の単純化により、動物相が変化

生態系を健全なものに蘇らせていくため、失われた自然を積極的に再生・修復することが必要（新生物多様性国家戦略：環境省編）

## 2. 大台ヶ原森林植生再生に向けての基本的な着目点

大台ヶ原森林再生に向けて、生物多様性保全の観点に基づき、検討する。

### 生物多様性の保全の例

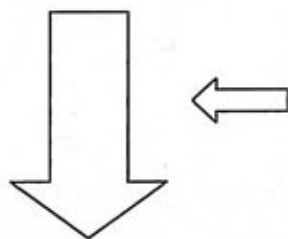
- ・生態系の多様性保全  
例) 大台ヶ原の生態系(森林、草原、溪流等)の多様性保全
- ・種の多様性保全  
例) 群落に生育する種(ゴヨウツツジ、ヤブレガサ等)の多様性保全
- ・遺伝子の多様性保全  
例) 同種内での多様性、地域個体群の多様性保全

## 3. 大台ヶ原森林植生再生の目標

大台ヶ原の森林植生を健全かつ生物多様性の高いものに蘇らせるために、「群落の多様性」に着目し、生物多様性保全の基礎となる森林植生の再生・修復目標を以下に示した。

### 大台ヶ原植生の再生目標

- 多様性が高く、持続性のある森林の再生・修復
- ・大台ヶ原の植生の多様性の再生、修復
- ・多様な群落構造(階層構造、種組成)を持つ森林の再生・修復



多様な植生(環境)を再生・修復することにより、そこに生息、生育する動植物の多様性の保全が期待される。

## 生物多様性が高い大台ヶ原の森林が再生

## 4. 大台ヶ原森林植生再生の調査方針

「多様性が高く、持続性のある森林の再生・修復」を実現するために、「群落の多様性」に着目し、大台ヶ原および他地域事例の文献・資料を整理し、再検討する。また、状況把握が必要な項目については現地調査により補い、過去および現在の状況をもとに総合的に検討を行う。

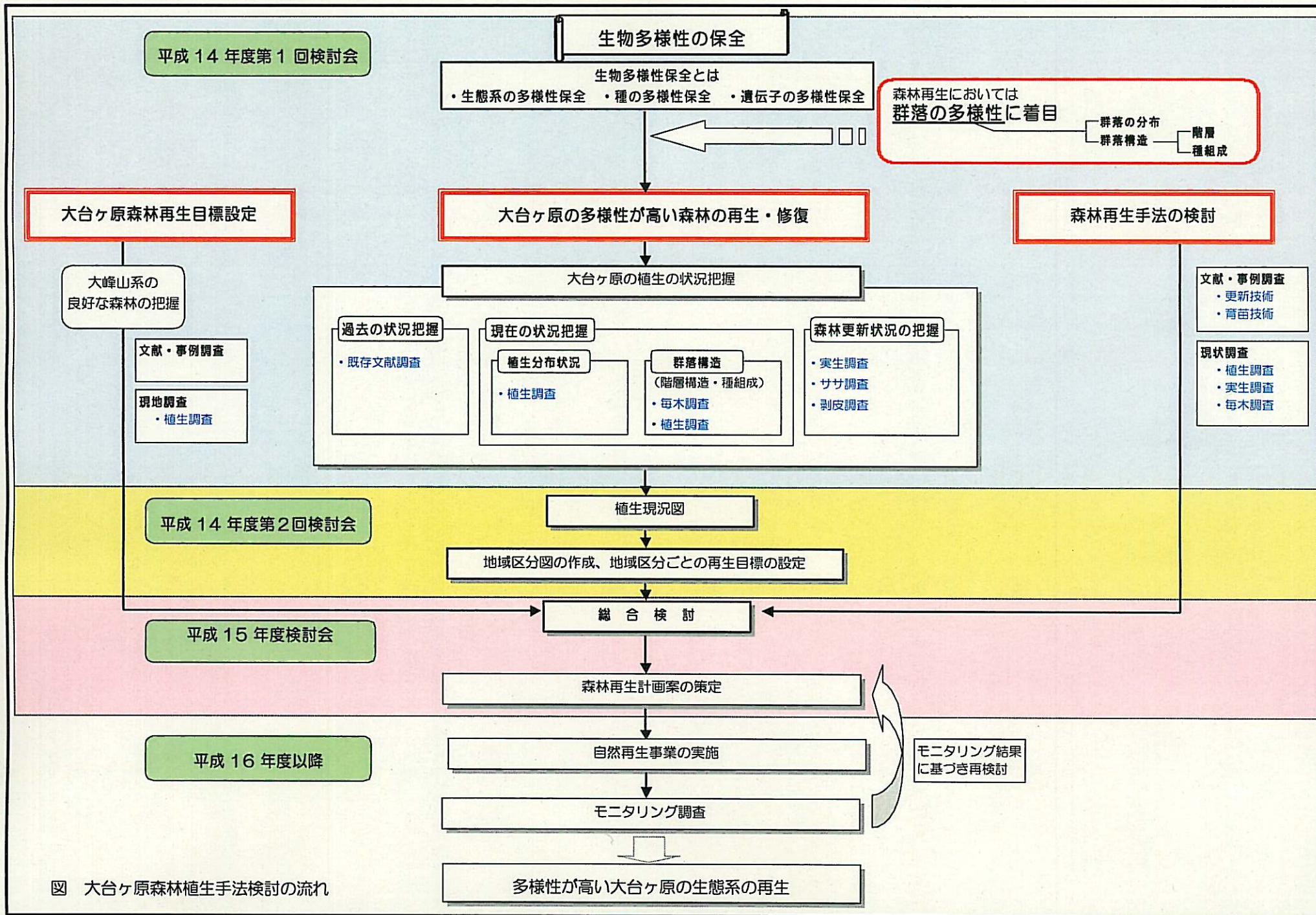


図 大台ヶ原森林植生手法検討の流れ